

第416回鉄鋼流通問題懇談会

2011年2月17日(木) 14:30

茅場町「日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北、新潟地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇2月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2011年5月25日(水) 14:30 ～

於：日本鉄鋼連盟4F会議室

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2011年2月)

| 発表者 発表項目 | メーカー JFEスチール |
|---------------|--|
| 1. 需給動向 (景況感) | <ul style="list-style-type: none"> 日本経済は、輸出の持ち直しやIT部門の在庫調整に目処がつきつつあり、自動車の減産の動きが一服してきていることなどから鉄工業生産は底固く推移している。12月の鉄工業生産指数(速報)は前月比+3.1%と2ヶ月連続の上昇となり、政府の基調判断は「持ち直しの動きが見られる」と上方修正された。 国内鉄鋼需給をみると、12月の粗鋼生産は前年比+2.5%の917万トンと14ヶ月連続で前年を上回り、2010暦年では前年比+25.2%の1億960万トンと2年振りに1億トン台を回復した。また、2010暦年の全鉄鋼輸出は、前年比+26.0%の4,340万トンと2年振りに増加、2008年の3,813万トンを超えて過去最高を更新した。一方、2010暦年の普通鋼鋼材輸入は前年比+46.8%の366万トンと3年振りの増加となった。 海外では、2010暦年の世界粗鋼生産が初の14億トン超え(14億1,360万トン)となり、中国は前年比+9.3%の6億2,665万トンと過去最高を更新した。鋼材市況は、需給調整の進展や原材料高騰による先高感などから、主要市場で上昇に転じてきており、今後の動向が注目される。 新興国経済の拡大を背景に資源価格が上昇する中、豪州での自然災害などもあって原料価格は更なる上昇が懸念されており、日本鉄鋼業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、引き続き内外の経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払っていく必要がある。 |
| 2. 需要産業動向 | <ul style="list-style-type: none"> 製造業については大きな動きは見られないが、建設関連では持ち直しの動きが見られる。 〔建築〕12月新設住宅着工戸数7.5万戸(前年同月比7.5%増)。7ヶ月連続で前年比増。 年率換算着工戸数86.1万戸と5ヶ月連続で80万戸台。低水準ながらも持ち直しの動き。 〔自動車〕1月国内販売29万台(前年同月比18.6%減)。5ヵ月連続前年比減。 12月完成車輸出47万台(〃16.7%増)。12ヶ月連続前年比増。 12月四輪車生産75万台(〃5.1%減)。3ヶ月連続前年比減。 〔産業機械〕12月工作機械受注 前年同月比1.6倍の988億円。2010暦年では9,786億円と1兆円には届かなかったものの内外需ともに回復傾向継続。 〔造船〕12月新造船受注168万GT(前年同月比12.0%増)4ヶ月連続前年比増。 12月末手持工事量 4,741万GT(前月比0.7%減)4ヶ月連続減。 |
| 3. 輸出入動向 | <ul style="list-style-type: none"> 〔輸出〕 12月の全鉄鋼輸出は、370万トン、前年比3.9%減と2ヵ月振りで前年比減。 〔輸入〕 12月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比16.2%増の30万トンと12ヵ月連続で増。国別では、中国(前年比▲35.8%)、韓国(〃+16.1%)、台湾(〃+53.8%)。 |
| 4. 海外市場動向 | <ul style="list-style-type: none"> 12月の世界粗鋼生産は、前年比7.8%増の1億1,616万トン、15ヶ月連続の前年比増。 12月の中国の粗鋼生産は、前年比6.3%増の5,152万トン。 |
| 5. トピックス | |

| 発表項目 | 発表者 | 鋼管 | 薄板 | 厚板 | 棒鋼・形鋼 |
|--------------|-----|---|---|--|---|
| | | 伊藤忠丸紅 | 岡谷鋼機 | JFE商事 | 兼松 |
| 1. 需給動向(景況感) | | 需要の全体感は低位横ばいではあるが、溶接鋼管類の市況については、スクラップ高による形鋼類の値上傾向及び2月以降の高炉・溶協メーカー各社の値上げ表明を受けて安値は切り上がる傾向にあり、今後流通各社は値上分の再販価格への転嫁に向けた動きを開始の予定。 | 12月末薄板三品在庫は、前月比7万トン増加の382万トンだった。コイルセンター、間屋在庫は減少したが、年末休暇の季節要因もあり、メーカー在庫で14万トン増加。足元では、原燃料事情を背景とした国内外メーカーの値上げ姿勢を受けて、各品種とも先高感が強まっている。特に、熱延、酸洗材については一部需要の回復と先高感からくる仮需の影響からタイト感が出ており、市況は続伸している。 | 造船、建機、産機分野の需要は総じて堅調に推移しているが、建築、土木、店売分野の需要は依然伸び悩んでいる。12月末の厚板在庫は出荷減の影響により、349千トンで前月比9千トン増となった。 | 棒鋼 鉄スクラップ 価格の上昇にて各メーカーの値上げにより市況は上昇しているが、値上げ前の先行手配の反動にて、足元は落ち着いている。形鋼 各メーカーの大幅な値上げを受け市況は上伸している。先高感による先行手配と一部仮需が見受けられたが、1月後半より引き合い低調となっている。市中在庫は依然として低水準にある。 |
| 2. 需要産業動向 | | 建築・土木関係は依然低位横ばいながら、都市圏ではマンション、戸建て住宅関係が好調。自動車はエコ補助金の優遇措置の終了により、若干生産をシフトしたものの大きな落ち込みもなく推移。建機関連については輸出を中心に依然好調を維持している。 | 自動車は、エコカー補助金打ち切りの反動減から12月の国内新車販売台数は前年同月比25%減の27万台となったが、輸出が好調を維持していることから12月生産は前年同月比5%減に止まっている。建設分野は住宅、非住宅ともに底を打ち、低水準ながらも持ち直しの動き。電機は終了前のエコポイント効果で薄型テレビ、冷蔵庫、エアコンが好調を維持している。 | 造船の12月末手持工事量は、前月比0.7%減の4,741万G/Tと4ヶ月連続のマイナス。建設機械の12月の出荷金額は1,926億円で前年同月比58.7%の増(12ヶ月連続の増)。内需は476億円で21.6%の増(6ヶ月連続の増)。外需は1,450億円で76.4%の増(12ヶ月連続の増)。と好調に推移。産業機械の12月の受注額は4,231億円で前年同月比125.5%。内需は2,810億円で119.3%。外需は1,421億円、139.9%で好調に推移。建築分野は盛上がり欠ける状況が続く。 | 2010年12月の新設住宅着工戸数は74,517戸。前年同月比7.5%増と7ヶ月連続の増加。新設住宅着工床面積は6619千㎡。前年同月比12.8%増と10ヶ月連続の増加。全建築物の着工床面積は、1028万㎡。前年同月比9.1%増と10ヶ月連続の増加。そのうち公共の建築主は58万㎡。前年同月比15%の減と3ヶ月連続の減少。民間の建築主は969万㎡。前年同月比11%増と10ヶ月連続の増加。 |
| 3. 輸出入動向 | | 12月の溶接鋼管の輸入は、11月比で15%の減の6,900トンとなり、9ヶ月振りに7,000トンを割り込んだ。 | 12月の薄板三品輸入実績は、熱延が前月比7%減少、冷延が同20%減少、亜鉛メッキが同24%減少し、全体では23.9万トンと前月比3.9万トン(14%)の減少となった。一方、薄板三品輸出実績は、熱延が前月比7%増加、冷延が同12%増加、亜鉛メッキが同5%増加し、全体では162万トンと前月比11.1万トン(7%)の増加となった。 | 12月の輸入実績は23千トン(前月比14%増)。輸出は342千トン(前月比3.7%増)。 | 輸出 2010年12月の異形棒鋼の輸出量は18,865トンで前月比19%減少。前年同月比では49%の大幅な減少となった。H形鋼の輸出量は44,825トンで前月比ではほぼ横ばい。前年同月比では14%増となった。また、2010暦年のH形鋼の輸出量は前年比71.1%増の43万5千トンと3年ぶりに増加した。 輸入 2010年12月のH形鋼の輸入量は前月比1635トン減の3442トン。 |
| 4. 海外市場動向 | | エネルギー開発・掘削活動は徐々に回復傾向を示している。米国のリガカントは陸上を中心に1,700基強と増加。油価・ガス価も堅調故、回復を期待しているが、供給過多状況で市況は強いとは言えない。東南アジアは低調だが、中東は活発。 | 原料価格の上昇を背景に、米国では昨年末から値上げが実施され、欧州も新興国向け輸出が牽引役となり、市況は下げ止まりを見せている。また、中国をはじめとする東アジア市場でも需給調整の進展や原材料高などから、鋼板市況は上昇基調を示している。 | 中国の春節明けの市況に急激な変動はあまり無く、これからの需要回復に伴い、継続的に小幅値上の局面が予想される模様。 | 中国国内の鋼材市況は鉄鋼石価格の上昇に伴い強基調にある。旧正月明け各メーカーはさらに値上げ表明しており、H形鋼については60元/トン~130元/トンの値上げ、4340元/トン~5010元/トン。異形棒鋼については50元/トン~150元/トンの値上げで4510元/トン~5050元/トン。 中国国内の旺盛な建築需要は今後も続くものと思われるが、インフレ懸念から政府の引き締め姿勢が明確になってきている。例えば定期預金の基準金利と貸出基準金利の上昇、2010年10月以降にて3回目となる。 |
| 5. トピックス | | | | | 1月の鉄スクラップの市況は中旬まで上昇基調をたどり、その後も地合いは堅調ながら、様子見状態となった。2月9日の関東鉄源協同組合の2月契約の輸出入札は平均価格37,986円で、合計2万1千トンを落札。前月比615円安と4ヶ月ぶりに小幅反落。需要面では、電炉メーカーのわずかながらの生産上向きと高炉メーカーの購買意欲も高まり、供給面では、各地の寒波による積雪要因もあり、集荷量が依然低調にて需給は底堅く推移している。 |